TOKYO 2020

アスリートの肖像

Kanae Yagi

Weightlifting

ウエイトリフティング 八木 かなえ

身長153cmの小柄な体とキュートな笑顔からは、100kgものバーベルを挙げるとはとても想像できない。実際に競技を見るまでは、彼女がウエイトリフティングのトップ選手であるとは信じられなかった。

競技を始めて4年でロンドン五輪に出場。リオデジャネイロ五輪では6位に入賞した。笑顔は東京五輪に向けての充実感の表れかと思ったが、話を聞いた5月初旬、彼女は悩みを抱えていた。

東京五輪ではウエイトリフティングの体重区分がすべて変更される。女子の最軽量級は48kg級から49kg級となり、八木選手の戦いの場であったその上の53kg級は消滅し、55kg級が新設された。

「五輪本番でメダルをねらうなら49kg級です。100%の力を出せればメダルを獲る自信があります。でも、そこには三宅宏実選手がいる。五輪2大会連続で48kg級のメダルを獲得した選手が相手ですから、国内選考を勝ち抜けないリスクも大きい。55kg級なら代表に選ばれる可能性は高くなりますが、たとえ自己ベストを更新できても五輪でのメダルは難しい」

2019年2月のワールドカップには49kg級で、4月のアジア選手権には55kg級で出場。あくまでもメダルをねらうのか、それともまずは出場を目指すのか。わずかな期間に、異なる階級で大会に挑む姿勢に苦悩が見てとれる。

「五輪は選手にとって本当に大きな大会。ほかの世界大会とは、まったく意味が違うんです。出場するだけでも得られるものがたくさんある。ましてや自国開催ですから、絶対に出場権は逃したくない。今、本当に悩んでいます」

5月24日、岩手で行われた全日本選手権で八木選手は優勝。選んだ階級は55kg級で、53kg級時代からあわせて5連覇を達成した。表彰台では笑顔も弾けた。悩みは吹っ切れたのだと、信じたい。Ⓢ

文／中島 亮
撮影／築田 純

今、迷いを振り切り前へ

やぎ かなえ／1992年、兵庫県生まれ。ALSOK所属。中学時代は器械体操で優秀な成績を収めていたが、高校入学と同時にウエイトリフティングに転向。全国高校女子選手権53kg級を3連覇し、日本代表選手に。大学2年生で出場したロンドン五輪は53kg級で12位、リオデジャネイロ五輪では53kg級で6位入賞。自己記録はスナッチ87kg、クリーン&ジャーク112kg。